

四柄受二升疑是木杓而其名依舊也。○中廣韻云匏瓠也。可爲笙竽。與此不同。按廣韻有匏字。云似

瓠可爲飯器音與匏同恐源君誤引之然說文匏瓠也無匏字則匏匏正俗字耳

〔段注說文解字木上〕杓杓柄也杓柄者勺柄也勺謂之杓勺柄謂之杓小雅言西柄之揭大雅傳曰大

志皆云杓擣龍角魁枕參首北斗一匙四爲魁象羹材五至七爲杓象杓柄從木勺聲甫遙切二部按索

〔事物紀原八什物器用〕杓

禮明堂位曰勺夏后氏以龍勺推此以考蓋前有制矣有夏始加以龍飾杓即勺也祭祀曰勺民用曰

杓其實一也或以勺之所容不過升勺命之而杓則加廣其所受皆取酌焉遂異其名制也

〔物類稱呼器用〕杓ひまやく關西にてまやくといふ關東にてひまやくと云もとひまごにてつ

くりたりよつていにしへはひまごといひし也瓠をば生ひまごといひし也ひまご轉じてひし

やくとなれりどぞ

〔日本釋名雜器〕杓ヒサゴひまご也ことくと通ずいにしへはなりひまごのほそながきを以て水をく

みしなり今も賤民はまかせり水をくむ所大にして手にとる所ほそきひまご有わざとつくれ

るひまごのごとし

〔古事記傳三〕比佐古は本瓠の名なりしが水を斟器に作るに依て其器の名にもなりて木もて

作れる杓をも同く比佐古と云から瓠をば那理比佐古と云か又本斟水器の名より出て瓠をも

云か其本末は未思得ずいづれにまれ那理比佐古と云は蔓になる故の名なり今世にひしやく

と云はひまごの訛なり又まやくとのみ云もひしやくの略なり杓字の音には非ず

〔延喜式十七内匠〕銀器

杓一柄莖長一尺七寸受三合料銀大十兩和炭七斗油七勺長功四人火工一人中功四人半短功五人○中略

賀茂初齋院并野宮裝束○中略